



ぐんぐん すくすく！ 相生っ子！

住所 相生市緑ヶ丘 4 丁目 5-5
電話 0791-23-5070
FAX 0791-22-7211
E-mail ikusei-aioi@bz03.plala.or.jp

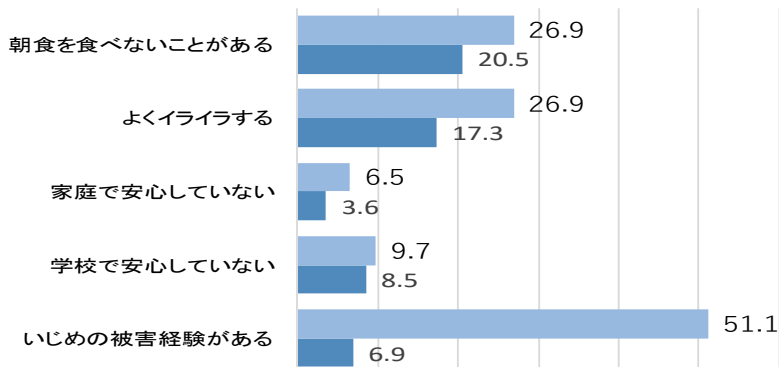


◇「生活ふりかえりシート」調査結果より（回答数 小4～中3の1,112人,2025年6月実施）

※8/25 実施の「いじめ防止サミット」の討議資料として活用した一部です。

いじめ加害経験の有無と生活習慣(%)

■ 加害経験あり ■ 加害経験なし

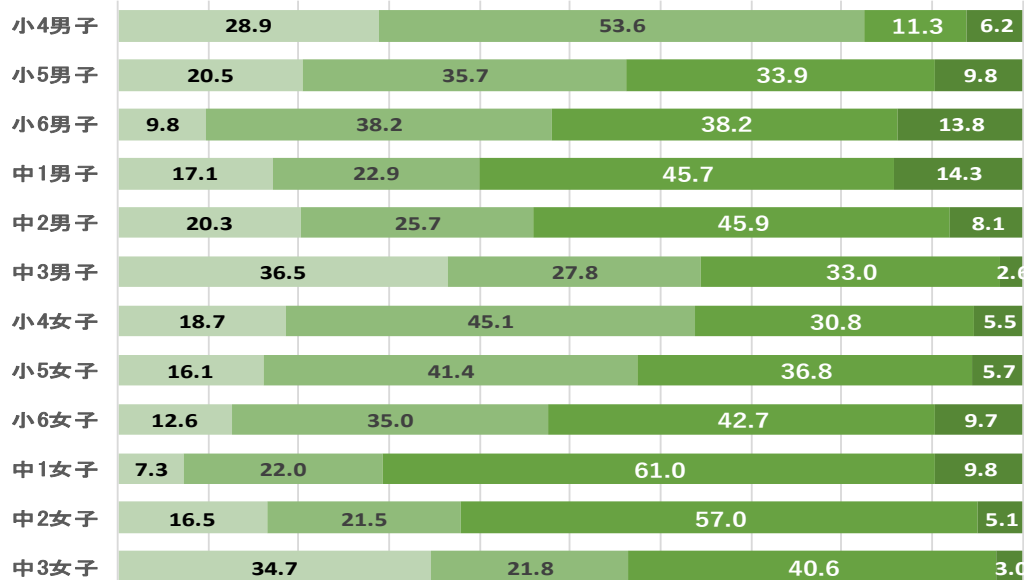


○ いじめの加害経験がある人の方が、朝食を食べないなど基本的な生活習慣に問題があるような感じがする。また、イライラするなど、不安を抱えて生活をしている。

○ いじめの加害経験がある人の5割以上が、いじめの被害経験もある。これは、自分がいじめられたいようにするためだと考えられる。だから、いじめはいけないことだが、いじめている人を悪者と決めつけずに、話をしていきたいという意見が出た。

いじめはどこで行われていますか？ (%)

■ 教室 ■ 教室以外 ■ ネット ■ ネット以外



○いじめが行われている時間や場所は、教室からネットへと増加しているが、中3になると再度、教室が多くなっている。その理由については、ネットでは手応えがなく、直接いじめてしまう状況にあるかもしれないという意見が出た。

生徒の頑張り所を奪わない

「なぜかきらわれない生徒指導」(前 哲央著 東洋館出版社)より抜粋

学級経営では、子どもにさせること、させないことの加減が大事です。子どもに決めさせること、決めさせないことの線引きも大事です。「あの先生は全部自分で決める」と思われたらやりづらいますが、生徒に決めさせてはいけない内容もあります。そうした内容は、先生として決定権を死守しなければなりません。その分、生徒が決めていいことは極力生徒に決めさせます。生徒も「任せてもらえた」と感じられ、責任感も生まれます。

クラスの中で誰かがいけないということも、極力生徒たちにしてもらいます。「生徒が面倒くさがるから自分でやっちゃいました」という状況は容易に想像できますが、そうしたことで生徒に任せてみることは大切です。生徒を「お客さん扱い」してしまうと、自分たちのことでも責任感がもてず、「何でもしてもらえろ」と思ってしまいます。「自分たちで何とかしよう」という気持ちが下がってしまうと、「当たり前」の秩序が崩れていくのです。

トラブルの度に「先生、なんとかしてください」と言っていたのでは、彼らの成長はどこで見られるのでしょうか。喧嘩もいじめも、先生も解決に向けて頑張るけれど、生徒たちにも「みんなで解決しよう」という気がなければ解決は難しいのと同じです。生徒たちの自覚があるということは、絶対にはずせません。

僕はよく教育関係の講演会に呼ばれます。その時に先生から、こんな悩みを打ち明けられることがあります。

「私は、口では生徒たちに立派なことを言っていますが、私自身はそれほど立派な人間ではないんです。このまま教壇にたっていてもいいのでしょうか」

悩ましい問題です。よね。そもそも教師として、あるいは父や母として、僕たちはどんな大人であるべきなのでしょうか？

僕が小学5年生くらいの時のことでした。工作の宿題が出たことがありました。「何をしようかな？」と悩んで、マッチ棒で家を作ることになりました。

僕は素晴らしいと思う家の設計図を描いて、いよいよ工作に取り掛かりました。

ところが途中でマッチが足りなくなりました。豪邸を作るつもりが犬小屋みたいになってしまいました。

しかも子どもでもですから、そんなにきれいには組み立てられません。左右の柱の高さが違って、あちこち歪んでいきました。何とか完成したのは、隙間がたくさん空いた不格好な「家」でした。僕はあまりの出来の悪さに落胆しました。

そうこうしているうちに、母が仕事から帰ってきました。母は僕の作った作品を目にすると「わあ、すごい家が出来たね！」と言うんです。

「これがいちばんいい家なわけじゃない。おべっかは効かないぞ」と僕が思っていたら、母は続けて「中に電球入れてごらん」と言うのです。

僕はその通りにしてみました。すると、不格好な「家」の隙間から光が漏れ出して、その美しさに目を奪われ、

幼心に「隙間のない立派な家でなくてよかったんだ」と感じました。

僕たちも大人もこの「家」と同じだと思っただけです。

大人は「完璧でいたい」と思いますが、生きていけばいろんな失敗や挫折を経験することになります。

でも子どもたちから見ると、そんな姿も希望になります。彼ら彼女らの人生にも、悔しいことや悲しいことが待っているでしょう。そんな時、身近にいるのが完璧な人ばかりでは立ち直り方が分かります。

僕は、欠点を持っていてもいいんです。偉大な業績を成し遂げなくてもいいんです。

生きて行く中で時には転んでしまう。それでも平気な様子で立ち上がり、また笑顔でひたおきに人生を歩む。そんな姿を子どもたちに見せていきたいと思います。

それは一見すると不格好に見えるかもしれませんが。けれどマッチの「家」のように内側にはきつと人としての魅力が輝いているはずなんです。

(福岡県で開催された講演会より)



(日本講演新聞 2025年7月28日号)

【きたがわ・やすし】愛媛県出身。東京学芸大学卒。2005年『賢者の書』(Discover21)にて作家デビュー。以降『いただきます』(audibleのみで音声配信)までの作品で、国内累計130万部を超えるベストセラー作家となる。『「また、必ず会おう」と誰もが言った』(サンマーク出版)は2013年に映画化された。全国各地でセミナー・講演会も実施している。

■臨床心理士による『相生っ子悩み相談』(要予約)

10月10日(金)と10月24日(金) 午後1時～5時

11月7日(金)と11月21日(金) 午後1時～5時

■センター職員による教育相談もご利用ください。

○来所相談 毎週 火曜日～金曜日 午後1時～4時

○電話相談 毎週 月曜日～金曜日 午後1時～4時

(ただし、祝日は休み)

友達に言えないこと、
両親に言えないこと、
先生にも言えないこと、
ひとりで悩んでいないで、
気軽に電話してください。
小・中・高校生・保護者
ご家族の皆さんもどうぞ。

※一人で抱えこまず、お気軽にご相談ください。

※問題に立ち向かうための元気づけ、勇気づけができればと思っています。